

ソフトウェアがクラウド・アプリケーション・サービスの形態で提供されることのメリットとは

筆者はオンプレミス環境でのソフトウェアを対象としたテクニカル・サポートとして10年間従事してきました。IBMでは長年にわたりオンプレミス用ソフトウェアを提供していますが、近年はクラウド・アプリケーション・サービスとしてのソフトウェア提供が一般的になり、IBMでもそうした形態での提供が増加しています。テクニカル・サポートとして多くのお客様を支援してきた経験から、ソフトウェアがクラウド・アプリケーション・サービスで提供されることによるメリットについて考えます。

近年、クラウド・アプリケーション・サービスを利用する企業の割合は大きく増加しており、新たなソフトウェアがクラウド・サービスとして提供されることへの期待も大きくなっています。クラウド・アプリケーション・サービスが活用されることのメリットは、スケーラビリティをはじめさまざまな点が挙げられますが、筆者は「コスト」と「スピード」の2つの観点で特に大きなメリットがあると考えています。

クラウド・アプリケーション・サービスを活用する際には、以下の関係者が想定され、例えば、監視ソフトウェアの場合、次のような役割を担います。

- A) ソフトウェアの提供者 (以下、提供者): 監視ソフトウェアを提供するIBMのようなソフトウェア・ベンダー
- B) ソフトウェアの一次利用者 (以下、利用者): 監視ソフトウェアを導入・カスタマイズしてサービスを提供するSler

C) ユーザー: B) が提供するサービスを利用し、所有機器が監視されることで最終的なメリットを受ける企業やエンドユーザー

●既存コストを削減し、新規投資に振り向けることができる

利用者はクラウド・アプリケーション・サービスを活用することで、オンプレミス環境でソフトウェアを利用する際に費やしていた次のような時間や手間から解放されます。

1. ソフトウェア導入までの時間の短縮

オンプレミス環境では、利用者がソフトウェアを導入するためにはサーバーやネットワークなどのハードウェア機器を事前に準備する必要があり、そのためには必要な物品の調達やコンピュータ・リソース確保のための精査と見積もりが必要です。一方、クラウド・アプリケーション・サービスはクラウド上で稼動するため利用者によ

る物理的な物品の調達が不要であり、しかも利用状況に応じてソフトウェアへのリソース割り当てを柔軟に変更することができます。これにより、利用者はソフトウェア導入までの時間を大幅に短縮することができます。

2. 導入・運用におけるスキル要員確保のための手間の削減

オンプレミス環境では、利用者はソフトウェア導入にあたり、まずサーバーやネットワークなどのインフラの構成が必要です。またソフトウェアの導入や設定にあたってはインフラやITに対する十分な知識が求められます。加えて、導入完了後もソフトウェアを安定稼働させるために継続的な監視を行う必要があります。万一障害が発生した場合には修正適用などの対応が必要になることもあります。従来、こうしたスキルを持つ要員を利用者側で確保することが不可欠でしたが、クラウド・アプリケーション・サービスにおいて

は監視や修正適用はクラウド上の環境に対して提供者が実施します。利用者はインフラの設定や監視を行うスキル要員を確保する必要がなくなります。

3. 問題発生時の解決時間の短縮

仮に運用中に問題が発生した場合は解決に向けての対応が必要です。テクニカル・サポートとしての経験上で解決にあたり最も重要だと考えていたのは、問題の正確な把握でした。オンプレミス環境では、こうした正確な問題把握のためには利用者にログ取得や詳細状況を説明してもらう必要がありますが、クラウド・アプリケーション・サービスとしての提供形態ではこうした作業が提供者側で行われるため、利用者の作業負担は大きく軽減されます。また、提供者側にて事象確認やログ取得ができることで問題の把握が早まり、解決にかかる時間も短縮されます。結果として、利用者は問題のある状況から迅速に回復できるようになります。

このように、利用者はクラウド・アプリケーション・サービスの活用でソフトウェアを実際に使用するまでの時

間を短縮できるとともに従来の作業負担から解放されます。結果として既存コストが削減され、その分のコストを新規分野への投資へ振り向けることができるようになるのです(図1)。

●開発スピードが向上し、ニーズの変化に迅速かつ柔軟に対応できる

利用者がコスト面でのメリットを得られる一方、提供者にもクラウド・アプリケーション・サービスとして製品開発することのメリットがあります。中でも大きなメリットは、PaaS(Platform as a Service)を利用することで得られる開発スピードの向上です。提供者は、PaaSを利用することで開発環境の準備にかかる手間を削減することができ、また継続的デリバリーのようなクラウド上のサービスを使用することで、追加機能をより迅速かつ安全に反映させられます。

近年ではデジタル化を背景にユーザーのニーズが多様化しており、ニーズの変化のスピードも早くなっています。従来のSoR(Systems of Record:記録のためのシステム)に加えてSoE

(Systems of Engagement:協働のための情報活用システム)の重要性が広く認知され、顧客のニーズを細部までとらえて製品に反映させることが強く求められています。また同時に、よりよい製品開発のために新しい技術をすばやく取り込んでいくことが求められています。開発スピードの向上は開発サイクルを早め、結果的にこうしたユーザーのニーズおよび技術の変化への柔軟な対応につながります。

* * *

これまで見てきたとおり、クラウド・アプリケーション・サービスとしてのソフトウェア提供は、利用者には主としてコスト面で、提供者には主としてスピード面で大きなメリットをもたらします。筆者が現在所属しているクラウド・イノベーション部門では、お客様がクラウドを最大限に活用してビジネスを成長させるためのご支援を行うことをミッションとしています。今回述べたようなメリットをお客様に最大限に享受していただくために、クラウドに対するケーパビリティをより高める技術の紹介や開発技法の提唱などの活動を行っていきます。

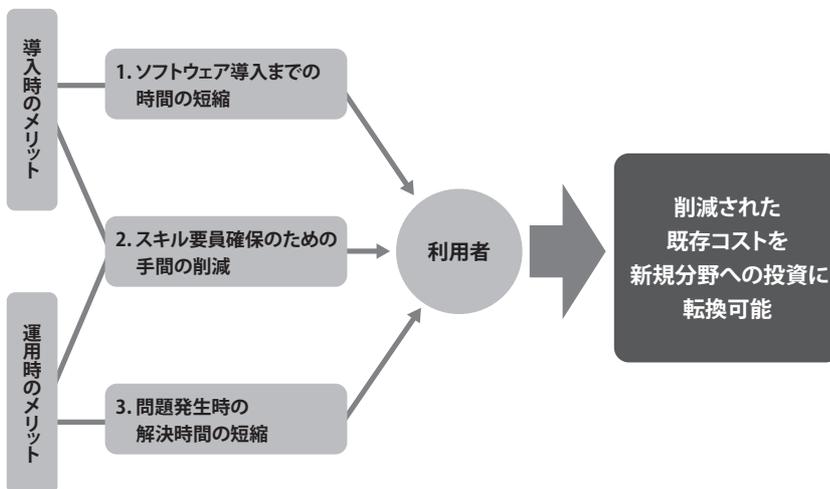


図1. 既存コスト削減がもたらすメリット



日本アイ・ビー・エム株式会社
研究開発 クラウド・コーダーズ
コーダー
水沼 和史
Kazufumi Mizunuma

2008年日本IBM入社。ソフトウェア製品のテクニカル・サポート・チームにて、Tivoli製品のサポートおよび製品障害発生時の緊急対策チーム・メンバーとして従事。2018年よりお客様のクラウド活用を推進する組織に所属。現在はコーダーとしてお客様のクラウド活用をサポートしている。